

あなたの家族や大切な人が「認知症」かも?と思ったら、あなたはどうします?

「あれっ?」と思ったら
ためらわず医師に
相談してみましよう!

今回は、神経内科の本多先生にお話しを伺いました。



1 「認知症」って?

最近、テレビや映画、新聞などで、「認知症」という言葉をよく耳にされると思います。現在、日本には約160万人の「認知症」の人がいるとされています。では認知症って?と聞かれると、まだまだ正しく理解されている方は少ないようです。そこでこの場を借りて、「もの忘れ外来」について少しお話しさせてもらうことにしました。

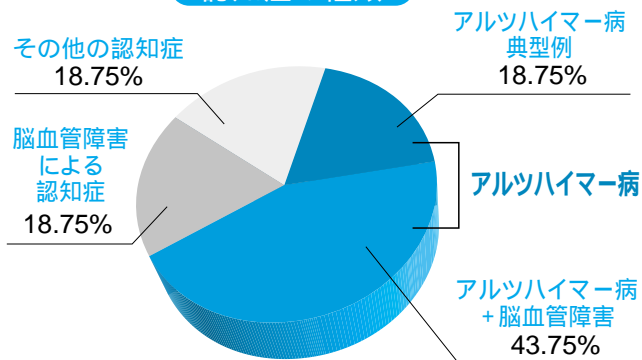
「認知症」とは、れっきとした病気であり、定義は「正常な脳機能の発達後、何らかの原因により持続的な認知機能に障害が起き、その結果、日常的社会的な生活・対人

関係が障害されている状態」というものです。

つまり、ある時期まではごく普通の生活をしていたのに、なぜだか以前のように社会生活を送れなくなった人のことを指します。(ここで気をつけて欲しいのは、先天的・生まれつき・脳の障害がある人のことは「認知症」には含まれません、認知症とは区別されていることです)。「歳だからしかたがない」、「もうろくした」と放置すると悪化することもあります。

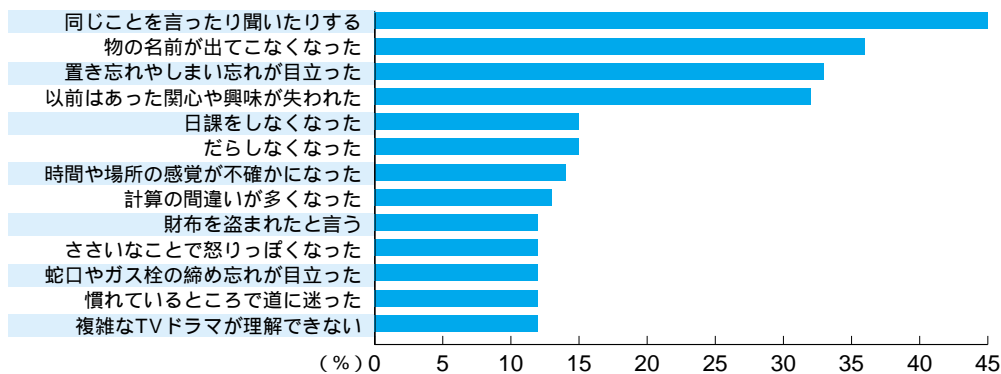
「もの忘れ外来」とは、認知症の原因を調べることによって、原因によっては治るものや、早期に発見、対処することで症状の進行を遅らせることができるものなどを鑑別し、ご家族・患者様と共に

認知症の種類



「認知症」に正しく向き合っている科なのです。

家族が気づいた認知症の初発症状



2 2 注意? どんな症状に

右のグラフは、東京都が1996年に発表したものです。大切なのは、このような日常の変化を見逃さない、ということです。